

第1回「災害に強い森づくり（第3期対策）」事業検証委員会 議事要旨

1 日 時：平成30年11月21日（水）14：00～16：30

2 場 所：兵庫県民会館 1202 会議室

3 出席者：安藤委員、石丸委員、北原委員、服部委員、松浦委員、山瀬委員、山端委員、
太田森林参事、小野山林務課長、金子治山課長、山口豊かな森づくり課長ほか

4 議事の概要

(1) 委員会のスケジュールについて

第2回以降の委員会及び現地調査の開催スケジュールを説明

(2) 「災害に強い森づくり」事業について

事業概要・計画・実績、平成30年7月豪雨災害の状況と整備効果確認結果、事業検証項目を説明

(3) 整備効果の検証について

第1期・第2期検証結果の確認及び第3期検証内容の概要を説明

5 主な意見

(1) 災害に強い森づくり事業全般について

- ・ 平成30年7月豪雨において、あれだけの雨が降ったにも関わらず、被害が比較的少なかったのは、これまでの取組の成果であることはもちろんだが、1時間あたりの最大雨量が100mmに達していなかったなど、雨の降り方に関係があるのではないか。
- ・ 森林の防災機能と生物多様性について、関係性の検討が必要である。防災機能を高めることが生物多様性の向上に繋がるのか、といった視点も必要である。
- ・ 人間にとって安定安全な環境はかく乱が少ないということなので、防災と生物多様性とは相反する部分があるかもしれない。
- ・ 効果検証を行う上で、調査の箇所数や聞き取りの範囲について、どれくらい必要なのかについては、それぞれ条件が様々なので、具体的な相談があれば回答していきたい。

(2) 緊急防災林整備（斜面对策）について

- ・ シカ食害の差異による土砂流出量や植生回復状況の比較を検証することとしているが、兵庫県内のシカの生息状況を説明して欲しい。
- ・ 調査区域内でのシカの滞留時間や頭数が影響すると思うが、考慮しているのか。
- ・ ミツマタの表面侵食防止効果を調査するにあたって、既に自生している場所ではなく、裸地状態の場所に植栽した場合にどこまでの効果があるのかを調査する必要があるのではないか。
- ・ 植栽したミツマタが成長するまで時間がかかるので、シカ不嗜好性の草本植物を活用することも検討して欲しい。
- ・ 下層植生が発達しにくいヒノキ林でも、ミツマタが生育可能か調査する必要がある。

- ・ 土留工は腐朽していくが、効果は何年ぐらい続くのか。
- ・ 効果がなくなってきた時の対応は、県としてどう考えているのか。

(3) 緊急防災林整備（溪流対策）

- ・ 流木対策として、流木の供給源となる溪畔林での伐採や樹種転換は取り組んでいるのか。
- ・ 危険木を伐採することと生物多様性の確保について、どのように考えているのか。
- ・ 天然林において実施する場合は、生物多様性について検討が必要である。
- ・ 災害緩衝林が最大限の効果を発揮する上で、根系と基盤岩の関係が問題になってくると思うが、検討はしているのか。

(4) 針葉樹林と広葉樹林の混交整備について

- ・ 針葉樹林の中にパッチワーク状に広葉樹林を作る取組は他県でも行われているのか。
- ・ 植栽する広葉樹の苗木はどのようなものを使っているのか。
- ・ ドングリ系の直根性樹種は、苗木生産時に直根の成長を阻害してしまう。そうした苗木がどのように成長していくのか検証して欲しい。

(5) 里山防災林整備について

- ・ 伐採木の萌芽再生による根系の崩壊防止力の変化について、興味深い内容なので継続して調査して欲しい。

(6) 野生動物共生林整備について

- ・ バッファゾーン整備直後は動物が警戒するので効果があると思うが、効果の継続性を調査する予定はあるのか。
- ・ 淡路島の諭鶴羽山系は地すべりや崩壊が多い地域だが、シカによる植生被害状況はどうか。
- ・ 植生保護柵内における植生回復状況調査の結果をどのように活用していくのか。また、シカ密度がどの程度低下すれば植生が回復するのかは分かるのか。

(7) 住民参画型森林整備について

- ・ 事業実施効果として、住民の意識や知識の高まりなど、ソフト面の評価もあってよいのではないか。
- ・ 事業の要望状況は順調か。
- ・ てんぐ巢病が出ている竹林も対象になるのか。

(8) 都市山防災林整備について

- ・ 第3期から都市山防災林整備に取り組んでいる理由は。
- ・ 六甲山は、地形が急峻で、花崗岩地質のため土の粘着力がほとんどなく、また保全対象が近くて多いことから、県内の他の地域とは状況が異なる。整備方法をきちんと設計しておく必要がある。
- ・ 「土壌が滑る力に抵抗する力を根系で補う」をどのように検証していくのか。